



Cisco ACI および OSP のアップグレード

- [Cisco APIC および OSP のアップグレードに関するガイドライン](#) (1 ページ)
- [アップグレード前のガイドライン](#) (1 ページ)
- [アップグレードのガイドライン](#) (2 ページ)
- [アップグレード後のガイドライン](#) (2 ページ)
- [Cisco ACI パッケージのアップグレード](#) (2 ページ)

Cisco APIC および OSP のアップグレードに関するガイドライン

OpenStack プラグインは Cisco Application Policy Infrastructure Controller APIC リリースでリリースされるため、Cisco APIC と同じセマンティックバージョンを使用します。たとえば、5.1(1) プラグインは Cisco APIC 5.1(1) リリースで提供されます。通常、OpenStack プラグインの Cisco APIC リリースは、一致するリリースおよび以前の長期サポート (LTS) Cisco APIC リリースに対してテストされます。ただし、特定のプラグインリリースは、追加の Cisco APIC リリースと互換性がある場合があります。使用されているプラグインのバージョンが Cisco APIC のバージョンと互換性があることを確認するには、『[Cisco ACI Virtualization Compatibility Matrix](#)』を参照してください。

互換性のある Cisco APIC と Red Hat OSP リリースについては、『[Cisco ACI Virtualization Compatibility Matrix](#)』を参照してください。

アップグレード前のガイドライン

Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) プラグインをアップグレードします。

さまざまな OpenStack バージョンを使用したプラグインの互換性に関する詳細は、『[Cisco ACI 仮想化互換性マトリックス](#)』を参照してください。

アップグレードのガイドライン

Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) ファブリックは、『[Cisco APIC Installation, Upgrade, and Downgrade Guide](#)』の情報に従ってアップグレードできます。

オプションで、Cisco ACIプラグインとCisco ACIファブリック リリースの組み合わせがサポートされている限り、プラグインをアップグレードせずにCisco ACIファブリックをアップグレードできます。詳細については、次の URL にある『[Cisco ACI Virtualization Compatibility Matrix](#)』を参照してください。

アップグレード後のガイドライン

Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) ファブリックをアップグレードした後、必要に応じて、OpenStack Cisco ACI パッケージをアップグレードした Cisco ACI ファブリック コード以下のバージョンにアップグレードできます。特定の情報については、[Cisco.com](#) の OpenStack Cisco ACI プラグインのリリースノートも参照してください。

OpenStack Cisco ACI プラグインをアップグレードする方法の詳細については、このガイドの [Cisco ACI パッケージのアップグレード \(2 ページ\)](#) を参照してください。

Cisco ACI パッケージのアップグレード

次の手順では、Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) プラグインの新しいバージョンで完全に展開されたオーバークラウドを更新します。アップグレードはライブで実行できます。



(注) Red Hat Director のドキュメントに従って、ステップ 4 のプラグインをアップグレードします。

手順

- ステップ 1 更新されたバージョンの `tripleo-ciscoaci-version` RPM と対応するプラグイン tarball (`openstack-ciscorpms-repo`) を [Cisco.com](#) から OSP Director にコピーします。
- ステップ 2 次のとおり、yum を使用して、`tripleo-ciscoaci-version` パッケージを更新します。 **yum update tripleo-ciscoaci-**
- ステップ 3 最初に **sudo podman login registry.connect.redhat.com** を使用して **registry.connect.redhat.com** にログインし、次に `/opt/ciscoaci-tripleo-heat-templates/tools/build_openstack_aci_containers.py` を実行して、コマンドを実行して Cisco ACI コンテナを作成します。ダウンロードしたプラグイン tarball を指すようにします。次に例を示します。

```
opt/ciscoaci-tripleo-heat-templates/tools/build_openstack_aci_containers.py -p  
-z/home/stack/openstack-ciscorpms-repo-163.0-848.tar.gz
```

コマンドは、Docker イメージを更新

し、/home/stack/templates/cisco_containers.yaml ファイルを更新します。

(注) コンテナをローカルに構築するには、「-p」オプションを省略できます。これらのローカルで構築されたコンテナは、Red Hat 認定ではない場合があります。コンテナを構築する前に、**registry.redhat.io** にログインします。

ステップ 4 Red Hat カスタマー ポータルの Red Hat アップグレード手順に従います。

『*Keeping Red Hat OpenStack Platform Updated*』の第 4 章「Updating the Overcloud」を参照してください。製品およびサービスの > 製品ドキュメント > **Red Hat OpenStack Platform > 16.2** に移動します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。